

戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）

2021(令和3)年度

研究開発実施報告書

科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への
包括的実践研究開発プログラム

研究開発プロジェクト

「現代メディア空間における ELSI 構築と専門知の介入」

The construction of ELSI and intervention of expert knowledge
in the contemporary media environment

2022(令和4)年5月31日

研究開発期間

(2020(令和2)年9月1日～2024(令和6)年3月31日(予定))

研究代表者／Principal Investigator

田中幹人

早稲田大学 政治経済学術院 教授

TANAKA Mikihito

Professor, Faculty of Political Science and Economics, Waseda University.

現代メディア空間における ELSI 構築と専門知の介入

■概要：

科学知が不確実性を伴う状況下での、専門家の社会への参画や専門知の社会適用は、単なる科学知の提供に留まらず、さまざまな ELSI を生み出す。新興感染症 COVID-19 をはじめ、こうした議論が構築される重要な場となっているのは、いまやマス/ソーシャル・メディアが渾然一体となったメディア空間である。

本プロジェクトは、蓄積した膨大な COVID-19 のメディア分析を基に、計算社会科学と科学技術社会論の手法を中心に、ELSI が構築される機序の解明に取り組む。さらに、今後立ち現れるだろう萌芽的科学技術も対象として、メディア分析を通じて ELSI に関する社会的議論の萌芽を捉え、専門知を社会の中に位置づけていく RRI の道筋を明らかにする。

■参画・協力機関：

国立環境研究所, 東京大学, 豊橋技術科学大学, 放送大学, 早稲田大学

■キーワード：

COVID-19, 科学技術社会論, 計算社会科学, ネットワーク分析, 自然言語処理, リスクコミュニケーション

The construction of ELSI and intervention of expert knowledge in the contemporary media environment

■Summary:

Under uncertain conditions, scientific experts are responsible for engaging the public throughout their advice with their knowledge and wisdom. However, such struggles could not be as neutral as the experts believe, and inevitably evoke arguments related to ethical, legal, and social issues (ELSI). As we observe throughout the COVID-19 cases, such disputes mainly occur in the media, incubated in the entangled information network of traditional mass media and social media.

In this project, we would scrutinize the mechanism of the construction of ELSI by using computational social science and science and technology studies methodologies. We will start from already obtained enormous media datasets about COVID-19 arguments and study the construction process of the imaginary of emerging science and technologies advents in the upcoming society. Through this project, we would cultivate a path of responsible research and innovation (RRI) that could settle emerging expert knowledge into society.

■Joint R&D Organizations:

The Open University of Japan, Toyohashi Institute of Technology, National Institute for Environmental Studies, The University of Tokyo, Waseda University.

■Key words:

COVID-19, Science and Technology Studies, Computational Social Science, Network Analysis, Natural Language Processing, Risk Communication

1. プロジェクトの達成目標

本研究は、第一にメディア空間で ELSI の社会的議論が形成される機序を探索する。第二に、この分析を通じ日本の「科学技術観」がこの議論の背景に果たしている役割を把握する。さらにこれらの分析結果を踏まえて、あるべき「専門知の介入様式」を検討する。

2. 研究開発実施内容・成果の概要

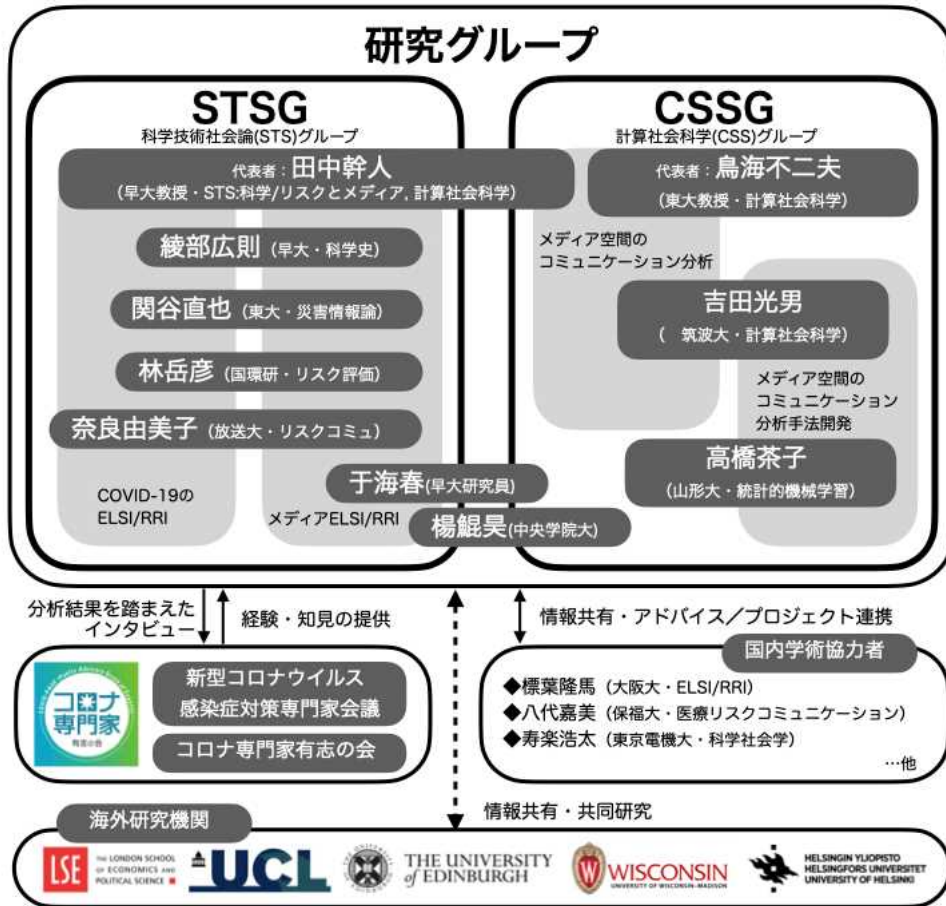
以下、2021 年度までの進捗について示す。

- ① **データ整備**：現状、マスメディアは新聞、SNS は Twitter を中心にデータ分析を行っている。しかし依然として圧倒的な影響力を持つテレビメディアや、Facebook, Instagram, Redit といった他の SNS の影響も無視できない。テキストベースの放送データセットの入手、研究者向け特別アカウントの申請などにより、これらデータへのアクセス権を確保した。2021 年度はこれらデータを中心により一層の整備を行った。
- ② **エイジズムの SNS 分析**：COVID-19 は「高齢者に厳しく、対策のために若者は忍従を強いられる」という特徴ゆえに、世代間対立を煽り、「老人差別(ageism)」という ELSI 問題をもたらす可能性がある。この問題について COVID-19 に伴うエイジズムの Twitter 議論分析を行った。本研究は 2021 年度で一端の区切りとした。
- ③ **Twitter の COVID-19 感情ヒートマップ**：COVID-19 関連の Twitter データからどのようにして「世論」を掴むかは大きな課題である。これに関し、日ごとの感情分析結果を統合し、各日の感情分布が、時系列的にどの時期と類似しているかを可視化する手法を開発した。これにより、「現在の COVID-19 に関する雰囲気、過去のどの時点と似ているか」を大づかみに検討することが可能になった。
- ④ **経済シミュレーション「対話」イベントの実施**：COVID-19 の社会的議論は「感染症対策か経済か」という二項対立で捉えられてきた。新型コロナウイルス分科会メンバーの呼びかけにより行われた感染対策と経済政策を調和させるための、経済学者のシミュレーション結果を、市民およびメディア関係者にそれぞれ開き、意見交換を行い科学的助言に組み込む試みを行った（2020 年度）。
- ⑤ **「論文」の言及傾向に関する分析**：新興感染症である COVID-19 の災禍において、その不確実性を通減するための「専門知」の意義は大きい。しかし、科学的知見が急ぎ社会投入される必要があるために、「プレプリント」の研究結果が大きく取りざたされている。これらの膨大な論文／プレプリントのうち人口に膾炙するものは、どのような機序で選別されているかという問題の機序を研究した。この成果は 2021 年度に人工知能学会で報告した。2022 年度中に国際学会誌に投稿の予定である。
- ⑥ **日本学術会議任命拒否問題の分析**：本 PJ の本義は「専門知の社会的意味」を再考することにある。この意味で、いわゆる日本学術会議委員の政府による任命拒否問題は、突発的ではあるが、日本社会の学術知の位置づけを考えるうえでの重要なメディア・イベントとなった。本事案についてどのような SNS 議論が行われたかのデータを収集し、分析を行った。2022 年度内に論文投稿の予定。
- ⑦ **ワクチン論争の分析**：COVID-19 のワクチン接種が開始された。このワクチンをめぐっては、副反応の強さなども含めて多くの倫理的・社会的議論が行われている。ワクチン接種前～早期の問題について、Twitter データを収集し、分析を行った。この成果は COVID-19 ワクチンのみならず HPV ワクチンにも拡大して展開中であり、2022 年度には複数の国内・国際学会で発表予定である。
- ⑧ **PCR 論争の分析**：COVID-19 の、おそらくは日本に特徴的な ELSI 議論として「PCR 論争」がある。この PCR 論争は、単に科学技術の社会適用を巡る論争であるのみならず、日本社会の「検査」に関する文化的意味をも反映していると推察される。2～8 月の

- Twitter 上における PCR 論争の展開を分析し、計算社会科学研究会にて学会発表を行った。本研究は 2022 年度にはより拡大したかたちで展開の予定である。
- ⑨ **市民対話の実施**：また、同様に厚生労働省特別研究費との連動のもと、市民対話に基づくコロナ下での生活やワクチンへの態度のグループ・インタビュー調査を行った。この成果は 2021 年度からは厚生労働省アドバイザーボードの公式資料として複数回にわたり発表し、現在は、政策への接続をより緊密にするための工夫を重ねている。
 - ⑩ **「変異種／株」呼称変化の分析**：ハイブリッドメディア環境での科学コミュニケーションの「成功例」として、当初「変異種」と呼ばれた COVID-19「変異株」が次第に正確な呼称に変化していったことは、SNS 上での専門家の活動とマスメディアの呼応によるものであることを明らかにした。本成果は学会発表を終え、論文化の予定である。
 - ⑪ **リスク認知に関する国際比較調査の実施**：グローバルリスクである COVID-19 は、政策や社会的議論を国際的に相対比較することが求められている。厚生労働省特別研究費との連動のもと、COVID-19 というリスクに関する大規模オンライン国際比較調査を設計・実施した。この分析結果を踏まえて、2021 年度は分析を深化させ学会発表を行った。2022 年度はこれを論文として発表予定である。
 - ⑫ **国際比較研究への参画**：昨年度に引き続き、NSF の資金を中心に Harvard University Kennedy School の Sheila Jasanoff 教授, Cornell University の Stephan Hilgartner 教授を中心に展開されている、COVID-19 対応に関する 16 カ国+α の国際比較プロジェクト”Comparative Covid Response (CompCoRE)”に、本 PJ として日本の事例を分析し参画した。また、この成果は OECD ワークショップ等を通じて広く共有した。成果は 2022 年度中に書籍として発刊予定である。
 - ⑬ **科学的助言をおこなった専門家へのインタビュー調査**：COVID-19 の渦中において科学的助言をおこなった専門家にインタビュー調査を実施した。本成果は 2021 年度に学会発表した。2022 年に論文化の予定である。
 - ⑭ **Facebook におけるワクチン懐疑論～隠謀論の分析**：Facebook に投稿されたワクチンに関する懐疑論～隠謀論の議論について内容分析を行い、経時的傾向を明らかにした。本成果は近日中に論文投稿予定である。
 - ⑮ **リスクの感情反応分析**：リスクの社会心理学や社会科学の分野では、人々のリスク観を構成する要素についての議論が蓄積されてきた中でも、Slovic(1987)に始まる研究群は、「恐ろしさ」ならびに「未知性」因子が人々のリスク認知に強く影響すると見なしている。この 2 因子を測定できる辞書を作成できれば、さまざまな分析に活用できることが期待できる。予備的研究として、2021 年は Twitter における集団的感情の経時変化を把握した。
 - ⑯ **英パンデミック下の政策における人社系専門知の活用実態と課題分析**：本調査では、イギリスの COVID-19 パンデミック政策における人社系専門知の活用について、特にイギリスの新型コロナウイルス対応において SPI-B が新型コロナウイルス拡大の各タイミングでどのような活動を行い、どのような影響を与えたのかということに注目して調査を行った。この成果は学会発表にて高い評価を得、論文出版準備中である。
 - ⑰ **Wikipedia における科学知生産の分析**：Wikipedia 日本語版の COVID-19 に関する項目は、市民による集合知の見事な例として機能している。では、この記事はどのような人々によって、どのように形作られたのかを、計算社会科学の手法を用いて分析した。この成果はすでに国際学会で発表し、年内に論文投稿を行う予定である。

3. 研究開発実施体制

〈実施体制図〉



4. 今年度までの活動実績

4-1. 研究論文

(1) 国際誌

1. Ryusuke Iizuka, Fujio Toriumi, Mao Nishiguchi, Masanori Takano, Mitsuo Yoshida "Impact of correcting misinformation on social disruption" *PLoS ONE*, 17(4): e0265734. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0265734> (2022)査読あり
2. Mitsuo Yoshida, Takeshi Sakaki, Tetsuro Kobayashi, Fujio Toriumi "Japanese conservative messages propagate to moderate users better than their liberal counterparts on Twitter." *Scientific Reports*, volume 11, Article number: 19224 (2021) 査読あり
3. Tomoya Saito, Kaori Muto, Mikihito Tanaka, Nobuhiko Okabe, Hitoshi Oshitani, Satoshi Kamayachi, Yoshihiro Kawaoka, Akihiko Kawana, Motoi Suzuki, Kazuhiro Tateda, Hitomi Nakayama, Masaki Yoshida, Akifumi Imamura, Fumio Ohtake, Norio Ohmagari, Ken Osaka, Mitsuo Kaku, Tomimasa Sunagawa, Kazutoshi Nakashima, Hiroshi Nishiura, Koji Wada, Shigeru Omi, Takaji Wakita "Proactive engagement of ad hoc Expert Meeting in Crisis Management of the early phase epidemic of COVID-19 in Japan, February to June 2020," *Emerging Infectious Diseases*, 27(10) (2021)

(2) 国内誌

- 該当なし

4-2. 総説・書籍など

(1) 国際

1. Juraku, K., Sato, K., and Tanaka, M. (Jan. 21. 2021) "Appendix A: Country Case Studies: Japan" in Jasanoff, S., Hilgartner, S., Hurlbut, J.B., Özgöde, O. and Rayzberg, M. (eds.) *Comparative Covid Response: Crisis, Knowledge, Politics: Interim Report*, Harvard Kennedy School. pp.69-72. [本 PJ による支援への言及有り]

(2) 国内

1. 田中幹人「科学とメディア」、塚原東吾、綾部広則、藤垣裕子、柿原泰、多久和理実編『よくわかる現代科学技術史・STS』ミネルヴァ書房(2022)

4-3. 講演・発表

(1) 招待講演

1. 田中幹人(2020.9.29)「専門家助言とリスクコミュニケーション」『新型コロナウイルス感染症問題をめぐる専門家助言の在り方』(大阪大学 ELSI センター), ZOOM (国内)
2. 田中幹人(2020.11.6)「コロナ禍におけるリスクコミュニケーションの課題」『日経・FT 感染症会議』, ZOOM (国内)
3. 鳥海不二夫(2020-11-12)国立国会図書館・科学技術に関する調査プロジェクト 2020 シンポジウム「コロナ時代のソーシャルメディアの動向と課題」"データから見るデマ拡散の構造"
4. 鳥海不二夫(2020-11-12)キャノングローバル戦略研究所経済と社会との分野横断的研究会「ビッグデータと COVID-19」"デマの訂正は社会的混乱を収束させるか?"
5. 鳥海不二夫(2020-11-02)電子情報通信学会 CBE 研究会"ソーシャルメディアから見た新

- 型コロナ禍"
6. 鳥海不二夫(2020-12-13), 行動経済学会第 14 回大会"特別セッション「行動を迅速に捉える最新研究」"(12/2020)
 7. 田中幹人(2021.2.16)「リスクガバナンスとコミュニケーションの新展開：新興感染症の渦中から」『SciREX オープンフォーラム』, ZOOM (国内)
 8. 田中幹人(2021.2.19)「リスクコミュニケーション」『東京都医師会セミナー』, ZOOM (国内)
 9. 田中幹人(2021)「リスクコミュニケーションの視座」, COVID-19 における倫理的・法制度的・社会的課題(ELSI)を考える—多様な研究開発の視点から 2021年11月23日
 10. Mikihito Tanaka (2021) On Japanese imagination of AI: case studies, Science & You 2021, 2021年11月17日 Science & You, University of Lorraine
 11. Mikihito Tanaka, (2022) “Scientific advice at different scales: coordination and contextualization: Insights from Japan,” OECD Global Science Forum: Scientific advice in crises: lessons learned from COVID-19, 2022年3月4日 (国際・オンライン)
 12. 田中幹人(2022)「COVID-19 パンデミックにおけるリスクコミュニケーションの課題」第 35 回公衆衛生情報研究協議会総会・研究会 (国内・オンライン)

(2) 口頭発表

1. 岩尾凜、鳥海不二夫、田中幹人(2021)「2020 年上半期コロナ禍の Twitter 空間における「PCR 検査」議論の変遷」, 『計算社会科学研究会』2021年2月27日, ZOOM (国内)
2. リウオンソク, 小松孝徳, 鳥海不二夫 (2021)「コロナ禍におけるデマの認知が Twitter に及ぼす影響の調査」, 『計算社会科学研究会』2021年2月27日, ZOOM (国内)
3. 石橋真帆, 田中幹人, 関谷直也 (2021)「新型コロナウイルスに関する情報行動の国際比較」日本リスク学会, 第 34 回年次大会, 2021年11月
4. 寿楽浩太, 田中幹人, 佐藤恭子(2021)「COVID-19 パンデミックにおける各国社会の対応の比較分析：市民社会, リスク・コミュニケーション, 専門知に着目して」科学技術社会論学会 第 20 回年次研究大会, 2021年12月5日 (国内)
5. 奈須野文槻 (2021)「公衆衛生学における、専門家助言とパブリックコミュニケーションの位置づけと関係性」科学技術社会論学会 第 20 回年次研究大会, 2021年12月5日 (国内)
6. Kyoko Sato, Kohta Juraku, Mikihito Tanaka, (2021) “The Pandemic in the Changing Social Compact: Challenges of the Japanese Case,” Society for Social Studies of Science (4S), Annual Meeting 2021, 2021年10月7日
7. 石橋真帆, 田中幹人, 関谷直也「リスクの特徴認知と情報源信頼の関連性: COVID-19 パンデミックにおける国際比較」2021年 社会情報学会(SSI) 学会大会 2021年9月12日
8. Kohei Takeda, Megumi Komata, Kanako Takae, Mikihito TANAKA, Ryuma Shineha (2022) "Media analyses for newspapers regarding genetic modification, regenerative medicine, and neuroscience," International Workshop on Molecular Robotics: Toward Chemical AI, 2022年3月14日
9. 于海春, 田中幹人 (2022)「新聞における新型コロナ感染症に関する情報伝達と感情変化の実証分析」第 1 回計算社会科学大会 2022年2月27日
10. Dongwoo Lim, Fujio Toriumi, Mitsuo Yoshida "Do you trust the experts on Twitter?: Successful correction of COVID-19-related misinformation" The 20th IEEE/WIC/ACM International Conference on Web Intelligence and Intelligent Agent Technology(2021)
11. Takuro Okada, Fujio Toriumi, and Maki Sakamoto "A Study on Emotional Analysis

Focusing on Onomatopoeia Used on SNS for the COVID-19" The 6th International Workshop on Application of Big Data for Computational Social Science(12/2021)

12. Kunhao Yang (2022) "More than a scientific issue: co-production pattern during knowledge production of COVID-19 related contents in Wikipedia" Digital Technologies in the COVID-19 Pandemic – a Transnational Dialogue between Germany and Japan, 2022.3.18, ZOOM (国際)
13. 端希子 (2021) 「英国の新型コロナウイルス感染症対策における専門知の活用と課題－SPI-B (行動科学チーム) に着目して－」 第 36 回研究・イノベーション学年次学術大会 2021 年 10 月 31 日

(3) ポスター発表

該当なし

4-4. WEB・プレス発表・メディア (1) Web サイト

1. JST-RISTEX RInCA プログラム プロジェクトページ：
<https://www.jst.go.jp/ristex/rinca/projects/jpmjrrx20j3.html>

(2) プレス発表

1. 東京大学 (2022 年 4 月 28 日) 「訂正情報がもたらす社会的混乱 ～コロナ禍のトイレットペーパーデマの詳細分析～」 <https://www.t.u-tokyo.ac.jp/press/pr2022-04-28-003>
2. 東京大学・豊橋技術科学大学 (2021 年 10 月 05 日) 「保守の声はリベラルの声よりも中間層に届きやすい」
https://www.t.u-tokyo.ac.jp/press/foe/press/setnws_202110041724379352821094.html

(3) 報道・投稿

1. 朝日新聞 「(コロナ禍の日本と政治) 「ラベリング」、差別を引き起こさないか単純化、あらがう社会を」
<https://digital.asahi.com/articles/DA3S14655675.html> 2020 年 10 月 13 日
2. 朝日新聞, 「(ニュースQ3) 豊洲市場 161 人感染、クラスターじゃないの？」
<https://digital.asahi.com/articles/DA3S14727275.html> 2020 年 12 月 11 日
3. Bloomberg, "A Bitter Vaccine History Means Hurdles for Japan's Covid Fight,"
<https://www.bloomberg.com/news/articles/2020-12-22/a-bitter-vaccine-history-means-hurdles-for-japan-s-covid-fight>, 2020 年 12 月 23 日
4. NHK サイカルジャーナル「『問題ない』が通じない 危機で問われた科学者」,
https://www3.nhk.or.jp/news/special/sci_cul/2021/03/special/special_20210325/
2021 年 3 月 25 日
5. 日本経済新聞 「「予測」は解を示せるか コロナ下、数式は万能でなく」 2021 年 3 月 26 日
6. 毎日新聞 「“コロナ疲れ” にどう呼び掛ける 専門家が提言「七つの改善点」」 2021 年 6 月 11 日
7. 朝日新聞 「#ねえねえ尾身さん 「ルビコン川渡って」 インスタライブ始めた狙い」 東京朝刊 2021 年 9 月 24 日
8. 日本放送協会 「130 年前のワクチン接種証明書を調べてみたら…」, News Up,
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20211011/k10013297001000.html> 2021 年 10 月 11 日

9. 日本民間放送連盟「オリパラとコロナ報道の両立～矛盾に及び腰だったメディア」、メディア時評 2021 年 11 月 13 日 会誌・広報誌
10. 毎日新聞「オシント新時代～荒れる情報の海：ワクチン巡るデマ拡散、主な起点は 7 アカウント「命奪いかねない」」 2022 年 1 月 3 日
11. 日経新聞「ワクチン誤情報拡散 29 の SNS 投稿→転載 5 万件 接種進展の阻害も」(2021/08/10)<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO74632130Q1A810C2MM8000/?unlock=1>
12. NHK WEB「ワクチンで不妊」のデマなぜ拡散し続けているのか(2021/08/10) <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20210810/k10013192071000.html>
13. 日経ラジオ社 ラジオ NIKKEI「リスクコミュニケーションのあり方」2022 年 2 月 14 日

4-5. 会議・イベント

1. 論文紹介ワークショップ：「"エビデンス"の適切な政策利用に向けて：学術的に議論するなら最低限このくらいのレベルを出発点としたい 5x3 の検討枠組み」
 - 主催：JST-RISTEX ELSI 領域「現代メディア空間における ELSI 構築と専門知の介入」（代表：田中幹人, 本プロジェクト）
 - 概要：近年、"エビデンスに基づく政策形成"の必要性が認識されてきているが、エビデンスの政策利用の際に考慮されるべき論点は未整理のままである。本講演では、5 つの検討軸（方法論的厳格性・一貫性・近接性・社会的適切性・正統性）と 3 つの制度化段階のクロス表からなるエビデンスの総合的な検討枠組みを提示する。
 - 講演者：林岳彦（国立環境研究所 環境リスク・健康研究センター（生態毒性研究室）主任研究員）
 - #紹介した論文：Kano & Hayashi (2021) A framework for implementing evidence in policymaking: Perspectives and phases of evidence evaluation in the science-policy interaction
<https://doi.org/10.1016/j.envsci.2020.09.001>
 - 日時：2021 年 2 月 26 日（金）17:00-18:00, 開催場所：ZOOM, 参加者：24 名
2. 市民対話イベント「『予測』を上手に活用できる社会を構想する」
 - 概要：社会が「予測」を活用して不確実な事象へ対処できるようになるには、どんな課題があるか、それを乗り越えるにはどうしたらよいか？専門家の講演と市民対話をもとに、「予測」を上手に活用できる社会を構想した。
 - 主催 JST-RISTEX ELSI プロジェクト「現代メディア空間における ELSI 構築と専門知の介入」（代表:田中幹人〈早稲田大学〉, 協力メンバー: 林岳彦〈国立環境研究所〉）
 - 共催 厚生労働行政推進調査プロジェクト「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の倫理的法的社会的課題(ELSI)に関する研究」（代表:武藤香織〈東京大

学) ; 分担: 田中幹人 (早稲田大学))

- 協力: 科学コミュニケーション研究所
- 講演者: 久保田 荘(早稲田大学), 仲田 泰祐(東京大学), 西浦 博(京都大学), 藤井大輔(東京大学), 千葉安佐子(東京財団), 西浦 博(京都大学)
- 参加者 (専門家) : 大竹 文雄(大阪大学), 小林慶一郎(慶應大学), 齋藤 智也(国立感染症研究所), 中島 一敏(大東文化大学), 武藤 香織(東京大学), 脇田 隆宇(国立感染症研究所)
- 参加者市民: 8 名
- 日時: 2021 年 1 月 24 日 @ZOOM

3. メディア意見交換会「『予測』を上手に活用できる社会に向けて」

- 概要: 社会が「予測」を活用して不確実な事象へ対処できるようになるには、どんな課題があるか、それを乗り越えるにはどうしたらよいか? 専門家の講演と市民対話の結果をもとに、メディア関係者との議論の中から「予測」を上手に活用できる社会を構想した。
- 主催 JST-RISTEX ELSI プロジェクト「現代メディア空間における ELSI 構築と専門知の介入」(代表: 田中幹人 (早稲田大学), 協力メンバー: 林岳彦 (国立環境研究所))
- 共催 厚生労働行政推進調査プロジェクト「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の倫理的法的社会的課題(ELSD)に関する研究」(代表: 武藤香織 (東京大学) ; 分担: 田中幹人 (早稲田大学))
- 協力: 科学コミュニケーション研究所
- 講演者: 久保田 荘(早稲田大学), 仲田 泰祐(東京大学), 西浦 博(京都大学), 藤井大輔(東京大学), 千葉安佐子(東京財団), 西浦 博(京都大学)
- 参加メディア関係者: 35 名
- 日時: 2021 年 1 月 30 日 @ZOOM

4-6. 知的財産権

該当なし

4-7. 受賞

1. 于海春 2021 年 7 月 第 20 回「アジア太平洋研究賞」(井植記念賞) 佳作賞 アジア太平洋フォーラム・淡路会議 (国内)
2. 端希子 2021 年 10 月 30 日 2021 年度「スチューデントアワード」研究・イノベーション学会 (国内)
3. 于海春 2022 年 4 月 2021 年度「笹川科学研究奨励賞」公益財団法人日本科学協会 (国内)

4-8. その他

- ・厚生労働省 新型コロナウイルス感染症対策アドバイザーボードの資料として本研究プロジェクト

の成果を数回にわたり提出し、研究成果を政策決定に反映することを試みた。こうした試みは JST-RISTEX の本義にもつながっているが、これまで RISTEX で試みられた多くの科学コミュニケーション・科学技術ガバナンスの実践ではなかなか到達できなかった取り組みである。政策への接続に伴い多くの課題を発見しており、今後の成果還元に繋げる予定である。

- 2021年8月4日 第46回厚生労働省アドバイザリーボード
<<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000816627.pdf>>
- 2021年11月17日 第59回厚生労働省アドバイザリーボード
<<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000856271.pdf>>
- 2021年12月28日 第65回厚生労働省アドバイザリーボード
<<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000898610.pdf>>
- 2022年2月16日 第72回厚生労働省アドバイザリーボード
<<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000898610.pdf>>
- 2023年4月6日 第79回厚生労働省アドバイザリーボード
<<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000926439.pdf>>
- 2023年4月26日 第82回厚生労働省アドバイザリーボード
<<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000934795.pdf>>